

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)京都嵐山計画

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境					0.40			2.6
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40	
	1	室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
	2	設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	
	1	開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境				1.6	0.35	2.1	1.00	2.0
2.1 室温制御				2.2	0.50	3.2	0.50	
	1	室温		3.0	0.38	5.0	0.57	
	2	室温変動・湿度制御性		-	-	-	-	
	3	外皮性能		3.0	0.25	1.0	0.43	
	4	ゾーン別制御性		1.0	0.38	-	-	
	5	漏気・漏熱制御		-	-	-	-	
	6	個別制御		-	-	-	-	
	7	時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
	8	監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				2.4	0.25	2.7	1.00	2.6
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	
	1	昼光率	●自然 A(全国標準用)	3.0	0.60	3.0	0.60	
	2	方位別開口		-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	●自然 B(推奨内容)	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.30	
	1	眩光防止対策		-	-	-	-	
	2	昼光制御	●自然 B(推奨内容)	2.0	1.00	3.0	1.00	
	3	眩光対策		-	-	-	-	
3.3 照度				1.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.4	0.25	3.2	1.00	3.3
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	
	1	化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
	2	ホルムアルデヒド対策		-	-	-	-	
	3	臭気対策		-	-	-	-	
	4	放射線対策		-	-	-	-	
4.2 換気				4.5	0.30	3.6	0.38	
	1	換気量		5.0	0.50	5.0	0.33	
	2	自然換気性能	●自然 A(全国標準用)	-	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮		4.0	0.50	3.0	0.33	
	4	換気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
	1	CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.0	0.40	3.7	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.5	0.60	
	1	広さ・収納性		3.0	-	4.0	0.50	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	0.50	
	3	バリアフリー計画	●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	4.0	0.40	
	1	広さ感・景観	●とも C(独自加点)	5.0	-	5.0	0.50	
	2	リフレッシュベース		3.0	-	-	-	
	3	内装計画	●とも D(独自基準)	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
	1	耐震性		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.33	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	●大切 A(全国標準用)	3.0	0.23	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		4.0	0.15	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性	1 空調・換気設備			3.4	0.19				
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20				
	3 電気設備			3.0	0.20				
	4 機械・配管支持方法			4.0	0.20				
	5 機械・配管支持方法			3.0	0.20				
	5 通信・情報設備			4.0	0.20				
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.4	1.00	2.5	
3.1 空間のゆとり						1.8	0.50		
1 階高のゆとり						1.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50		
3.3 設備の更新性				3.0	1.00				
1 空調配管の更新性				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17		
2 給排水管の更新性				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17		
3 電気配線の更新性				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		
4 通信配線の更新性				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		
5 設備機器の更新性				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22		
6 バックアップスペース						3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.7	
1 生物環境の保全と創出				●とも	A'(全国版準用)	既存の樹木を保存	4.0	0.30	4.0
2 まちなみ・景観への配慮				○	C(独自加算) D(独自基準)	風致基準の堅守	4.0	0.40	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮							3.0	0.30	3.0
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上				●とも, 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	
3.2 敷地内温熱環境の向上				●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	3.2
LR1 エネルギー							-	0.40	3.3
1 建築物の熱負荷抑制							2.0	0.30	2.0
2 自然エネルギー利用							4.0	0.20	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	
2.2 自然エネルギーの変換利用				●自然	A(全国版準用)	太陽光発電設備	5.0	0.50	
3 設備システムの高効率化							4.2	0.30	4.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)						ERR=20.7%	4.0		
集合住宅の評価							4.0		
4 効率的運用							3.5	0.20	3.5
4.1 モニタリング						中央監視設備への各種計量取込み	4.0	0.50	
4.2 運用管理体制							3.0	0.50	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	3.3
1 水資源保護							3.4	0.15	3.4
1.1 節水						節水器具の使用	4.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	
1 雨水利用システム導入の有無				●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.33	
2 非再生性資源の使用量削減							3.4	0.63	3.4
2.1 材料使用量の削減				●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	既存建築物の継続使用	2.0	0.07	
2.2 既存建築躯体等の継続使用							5.0	0.24	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	地域産木材の利用	3.0	0.20	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24	
3 汚染物質含有材料の使用回避							2.9	0.22	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用						有害物質を含まない材料の使用	5.0	0.32	
3.2 フロン・ハロンの回避							2.0	0.68	
1 消火剤						消火設備はスプリンクラー	-	0.33	
2 発泡剤(断熱材等)							3.0	0.33	
3 冷媒							3.0	0.33	
LR3 敷地外環境							-	0.30	3.1
1 地球温暖化への配慮							3.6	0.33	3.6
2 地域環境への配慮							2.8	0.33	2.8
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善				●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							2.5	0.25	
1 雨水排水負荷低減							3.0	0.25	
2 汚水処理負荷抑制							3.0	0.25	
3 交通負荷抑制							1.0	0.25	
4 廃棄物処理負荷抑制							3.0	0.25	
3 周辺環境への配慮							3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	
1 騒音							3.0	0.33	
2 振動							3.0	0.33	
3 悪臭							3.0	0.33	
3.2 風害, 日照障害の抑制							3.0	0.40	
1 風害の抑制							3.0	0.70	
2 砂塵の抑制								-	
3 日照障害の抑制							3.0	0.30	
3.3 光害の抑制							3.0	0.20	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							3.0	0.70	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	

記号凡例 ● 重点項目 ○ 低炭素建築創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」大切に使う「とも」ともに使う「自然」自然からつくる